

## 百年の森で本多静六賞に!

### ●第5回本多静六賞をいただく!

今朝の埼玉新聞に『『百年の森』づくりを推進 本多静六賞に浦高同窓会』という記事が掲載されています。

\*

### ◆「百年の森」づくりを推進

#### 本多静六賞に浦高同窓会

県は29日、森林に関する研究や実践活動を通じて緑と共生する社会づくりに貢献した個人、団体を表彰する「第5回本多静六賞」に、寄居町で森づくり活動に取り組む「浦和高等学校同窓会」を選定したと発表した。

浦和高等学校は2005年から同町風布地区の民有林約5ヘクタールを借り受け、卒業生と在校生が地元住民の協力を得ながら「浦高百年の森」づくり活動を展開している。学校・同窓会による森づくり活動の先駆けで、同様の活動は浦和一女高など他の学校・同窓会に広がっている。

同賞は久喜市(旧菖蒲町)出身で日本最初の林学博士・本多静六博士を顕彰するとともに、その精神を受け継ぐ個人、団体を表彰しようと07年に創設。今回は12の個人、団体が推薦され、選考委員会(委員長・下村彰男東大教授)の審査を経て決定した。

表彰式は5月に開かれる県植樹祭(春日部市)の中で行われる。【埼玉新聞 3月30日】

\*

### ◆本多静六博士

本多静六博士は、慶応2年(1866年)7月2日、現在の久喜市(旧・菖蒲町)に生まれ、日本最初の林学博士として、近代林学の基礎を築くとともに、明治神宮の森や東京都水源林などの森林の造成、日比谷公園や大宮公園をはじめとする全国各地の公園の設計など様々な事業を行い、社会の発展に大きく貢献しました。

また、私財を投じて取得した森林を奨学金事業実施のため、昭和5年に埼玉県に寄付しました。この森林から生ずる収益をもとに「本多静六博士奨学金」が設けられ、昭和29年以降現在までに1,500人を超える学生に奨学金が貸与されています。

【埼玉県「本多静六賞の創設について」より】

\*

さて、この本多静六賞の過去の受賞者を調べて見ると…。

### ◆第1回(2007年)受賞者

山中 敬久(やまなか たかひさ)氏(林業経営)

#### 【功績の概要】

- 森林所有者のリーダーとして間伐が遅れた放置森林の解消に活躍



- 林業を通じて広大な森林を守っている数少ない経営者の一人
- 作業道の整備と機械化により、県内屈指の木材生産コスト低減を実現し、他に普及している
- 地域の新たな特産物として、ナメコやコシアブラなどの生産販売に取り組んでいる

\*

### ◆第2回(2008年)受賞者

NPO 法人埼玉森林サポータークラブ(設立:平成9年度、会長:北村 博氏)

#### 【功績の概要】

- 県全域で森林整備に取り組み、活動規模を拡大している全国でも有数の森林ボランティア団体
- 県民参加によるボランティア団体の先駆け
- 県内森林ボランティア団体のリーダー的役割を果たしている



\*

### ◆第3回(2009年)受賞者

原邦紘(はら くにひろ)氏(68歳)〔神川町〕  
こだま森林組合長

#### 【受賞理由】

- 森林組合長として、高能率・高精度な施業を実践し、森林組合の改革に取り組んでいる。
- 価格面からみて、外国産材と国内で対等に競争しうる人工林の伐採、販売及び現行補助制度を利用した植付、保育を実践し、持続的な森林経営に取り組んでいる。

\*

### ◆第4回(2010年)受賞者

斎藤 馨(さいとう かおる)氏(56歳)東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

#### 【受賞理由】

- 21年にわたり、秩父演習林をフィールドとして
- 森林の日々の変化、鳥の鳴き声等を記録・発信するシステム「サイバーフォレスト」を開発
- これにより蓄積された映像・音声を用いて、小中学生を対象に遠隔授業を実践するなど、ユニークな環境教育を実施